野ネズミ発生予察調査の結果と野ネズミ類モニタリング調査への移行

九州大学農学部附属演習林　技術職員　南木大祐

1.　はじめに

九州大学農学部附属北海道演習林(以下「北海道演習林」)は 3710ha の森林を有し，その約 27%にあたる 999ha にカラマツを植栽している．カラマツはトドマツやアカエゾマツに比べて野ネズミ類，特にエゾヤチネズミによる食害を受けやすく，北海道内では恒常的に被害が発生している．野ネズミ被害を最小限に抑える防除計画を立案するため，野ネズミ発生予察調査(以下「予察調査」)が北海道では 1951 年に始まり，1956 年に現在行われている碁盤目状に捕殺ワナを仕掛ける方法での調査が開始された．北海道演習林では 1991 年から，国有林・民有林で行われている予察調査に準じた方法で予察調査を実施してきた．一方，北海道演習林は 1979 年から北海道によって鳥獣保護区に指定されており，鳥獣の捕獲が禁止されている．2002 年に鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(以下「鳥獣保護法」)が改正され，それまで鳥獣保護法の対象になっていなかったトガリネズミ目やネズミ科の動物(ドブネズミ、クマネズミおよびハツカネズミを除く)も鳥獣保護法の対象になり，北海道演習林内での予察調査の実施にも北海道の許可が必要となった．許可を得るにあたっては近年の自然保護や動物福祉上の問題もあり，生息数推定を目的とする調査には非致死的手法を用いること求められた．これを受けて，北海道演習林では 2009 年から 2013 年までを移行期間として予察調査と並行して生捕ワナ（シャーマントラップ）を用いた野ネズミ類のモニタリング調査(以下「モニタリング調査」)を実施し，2013 年度を持って予察調査は終了とし，今後はモニタリング調査を継続していくこととした．

2.　結果と考察

1991 年から 2013 年に行った予察調査でエゾヤチネズミ 1827 匹，エゾアカネズミ 1090 匹，ヒメネズミ 525 匹，エゾトガリネズミ 556 匹，ミカドネズミ 10 匹，合計 4008 匹を捕獲した．1993 年 10 月の全調査地，2004 年 8 月の 11 林班 9 小班は欠測となった．森林タイプごとの 0.5ha 当り捕獲数を図 1 に示した．移行期間の予察調査とモニタリング調査の結果を図 2 に示した．両調査共に捕獲数は年によって大きく変動し，予察調査では森林タイプに関わらず捕獲数の変動パターンは一致した．移行期間の両調査の捕獲数の変動パターンは概ね連動したため，モニタリング調査の結果より予察調査の結果を推定することも可能であると判断し，予察調査を 2013 年で終了とした．

ただし，調査方法の違いにより，両調査の捕獲数を単純に比較出来ない．個体数推定法も異なり推定値も単純に比較出来ない．両調査の結果を比較して議論する場合，モニタリング調査の結果から予察調査で得られたであろう結果を推定する場合には較正が必要となる．

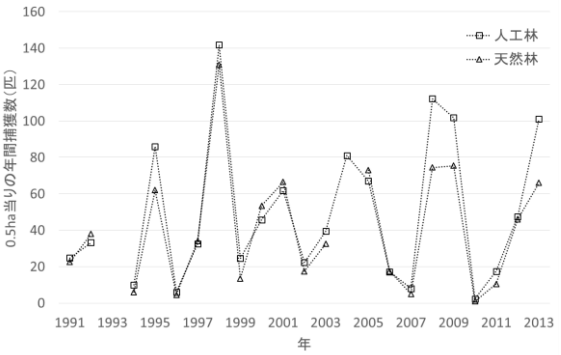

図 1　予察調査の 0.5ha 当り年合計捕獲数

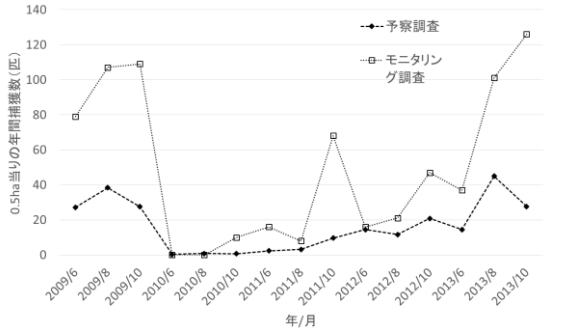

図 2　移行期間の月別捕獲数